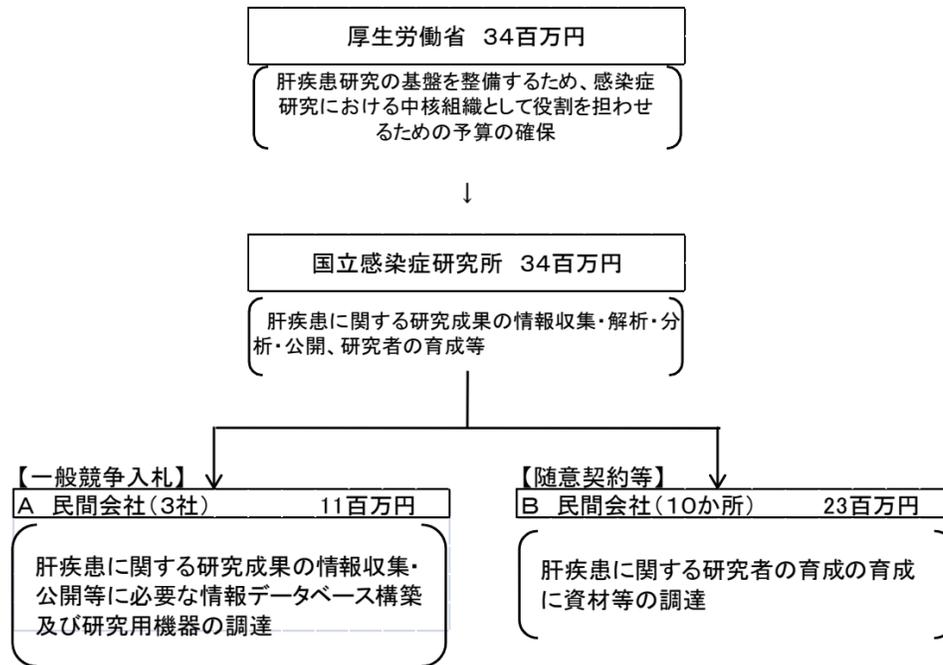


平成24年行政事業レビューシート (厚生労働省)

事業名	肝炎研究基盤整備事業	担当部局庁	健康局	作成責任者			
事業開始・終了(予定)年度	平成21年度	担当課室	疾病対策課肝炎対策推進室	肝炎対策推進室 北澤 潤			
会計区分	一般会計	施策名	IV-3-4 感染症の発生・まん延を防止する				
根拠法令 (具体的な条項も記載)	肝炎対策基本法 第18条第1項及び第2項	関係する計画、通知等	-				
事業の目的 (目指す姿を簡潔に。3行程度以内)	平成20年度に開催された「肝炎治療戦略会議」で、「肝炎研究7カ年戦略」が取りまとめられ、その中で国立感染症研究所は、我が国における肝炎研究の基盤整備を図るための中核的組織と位置づけられている。肝疾患研究については、各地の研究施設等で、それぞれ独自に行われ、研究の重複や必要な研究への取組不足などの問題が生じている状況に鑑み、本事業により、研究成果の情報収集・解析や研究者の育成等を行い、研究基盤の整備を図る。						
事業概要 (5行程度以内。別添可)	国立感染症研究所において、研究成果の情報収集・解析・公開、研究者の育成等を行う。 <ul style="list-style-type: none"> ・ ウイルス肝炎データベースの構築 ・ 若手研究者育成研修の実施 ・ 肝炎に関する研究情報収集及び研究者や専門医を対象とした情報の発信 						
実施方法	<input type="checkbox"/> 直接実施 <input checked="" type="checkbox"/> 委託・請負 <input type="checkbox"/> 補助 <input type="checkbox"/> 負担 <input type="checkbox"/> 交付 <input type="checkbox"/> 貸付 <input type="checkbox"/> その他						
予算額・執行額 (単位:百万円)		21年度	22年度	23年度	24年度	25年度要求	
	予算の状況	当初予算	46	36	35	34	37
		補正予算					
		繰越し等					
		計	46	36	35	34	37
		執行額	36	36	34		
	執行率(%)	78%	100%	97%			
成果目標及び成果実績 (アウトカム)	成果指標		単位	21年度	22年度	23年度	目標値 (年度)
	肝炎対策基本指針に基づき、種々の目標設定に資する調査及び研究を行うこととしており、個々の研究により成果も異なることから統一的に成果を設定することは困難である。	成果実績		-	-	-	-
		達成度	%	-	-	-	
活動指標及び活動実績 (アウトプット)	活動指標		単位	21年度	22年度	23年度	24年度活動見込
	ウイルス肝炎データベースの構築	活動実績 (当初見込み)	件	1 (-)	2 (-)	3 (1)	- (3)
活動指標及び活動実績 (アウトプット)	活動指標		単位	21年度	22年度	23年度	24年度活動見込
	若手研究者向け講習会参加者	活動実績 (当初見込み)	名	19 (-)	16 (12)	- (12)	- (10)
活動指標及び活動実績 (アウトプット)	活動指標		単位	21年度	22年度	23年度	24年度活動見込
	肝炎ウイルスセミナーの開催	活動実績 (当初見込み)	回	5 (5)	5 (5)	5 (5)	- (5)
単位当たりコスト	35百万円/事業		算出根拠	35百万円=35百万円/1事業			
平成24・25年度予算内訳	費目	24年度当初予算	25年度要求	主な増減理由			
	雑役務費	17	14	単価の見直しによる減			
	消耗品費	8	9	新規事業に係る増			
	備品費	5	10	単価の見直しによる増			
	その他	4	4				
	計	34	37				

事業所管部局による点検			
	評価	項目	評価に関する説明
目的・予算の状況	○	広く国民のニーズがあり、優先度が高い事業であるか。	肝疾患研究成果の情報収集・解析、研究者の育成等を行い研究基盤の整備することで肝炎研究の促進を図り成果を国民に還元することが出来ると考えるため重要な事業である。
	○	国が実施すべき事業であるか。地方自治体、民間等に委ねるべき事業となっていないか。	各地の研究施設等で独自に行うよりも当事業で行うことにより効率的に実施することが出来ると考える。
	-	不用率が大きい場合は、その理由を把握しているか。	-
資金の流れ、費目・使途	○	支出先の選定は妥当か。競争性が確保されているか。	肝炎研究7か年戦略の中で国立感染症研究所は基盤整備を図るための中核組織と位置づけられている。
	○	単位あたりコストの削減に努めているか。その水準は妥当か。	単位あたりコストの削減は困難な状況であるが、消耗品等に係る支出の抑制等によりコストの削減に努めることとする。
	-	受益者との負担関係は妥当であるか。	-
	○	資金の流れの中間段階での支出は合理的なものとなっているか。	事業の実施に必要な支出を行うにあたり実情を勘案し支出を行っているものとする。
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	研究用の機器等や若手研究者の育成に係る経費等真に必要な費目を補助対象経費としている。
活動実績、成果実績	○	他の手段と比較して実効性の高い手段となっているか。	各地の研究施設等で独自に行うよりも効率的に実施することが出来ると考える。
	-	適切な成果目標を立て、その達成度は着実に向上しているか。	-
	○	活動実績は見込みに見合ったものであるか。	セミナーの回数等見込通りの実績をあげている。
	-	類似の事業があるか。その場合、他部局・他府省等と適切な役割分担となっているか。	-
	-	※類似事業名とその所管部局・府省名	-
○	整備された施設や成果物は十分に活用されているか。	肝炎ウイルスセミナーやデータベース等の活用により肝炎研究の推進がはかられているものとする。	
点検結果	<p>当該事業については、若手研究者等の人材育成や、肝炎研究に有用な各種データベースの構築などにより、研究基盤を整備することで、肝炎研究分野の推進を図るものである。活動実績も当初見込みを上回っており、引き続き、限られた予算の効率的・効果的な執行に努め、研究の推進を図る。</p>		
予算監視・効率化チームの所見			
一部改善	<p>肝炎研究基盤整備事業については、肝炎対策基本法に基づく必要な事業であるが、恒常的に多額の不用が生じているわけではないものの、執行実態を精査のうえ、必要な見直しを行うこと。</p>		
上記の予算監視・効率化チームの所見を踏まえた改善点(概算要求における反映状況等)			
執行等改善	<p>事業実績を踏まえ、データベース維持管理にかかる経費を削減する一方で真に必要な予算要求を行っている。</p>		
補記（過去に事業仕分け・提言型政策仕分け・公開プロセス等の対象となっている場合はその結果も記載）			
関連する過去のレビューシートの事業番号			
平成22年行政事業レビュー	264	平成23年行政事業レビュー	122



資金の流れ
 (資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:百万円)

A.チヨダサイエンス			E.		
費目	使 途	金 額 (百万円)	費目	使 途	金 額 (百万円)
備品費	研究用機器	6			
計		6	計		0
B.チヨダサイエンス			F.		
費目	使 途	金 額 (百万円)	費目	使 途	金 額 (百万円)
備品費	研究用機器、研究用消耗品	1			
消耗品費	研究用消耗品	1			
計		2	計		0
C.			G.		
費目	使 途	金 額 (百万円)	費目	使 途	金 額 (百万円)
計		0	計		0
D.			H.		
費目	使 途	金 額 (百万円)	費目	使 途	金 額 (百万円)
計		0	計		0

費目・使途
 (「資金の流れ」
 においてブロックごとに最大の
 金額が支出されている者について
 記載する。費目と使途の双方
 で実情が分かるように記載)

支出先上位10者リスト

A.

	支出先	業務概要	支出額 (百万円)	入札者数	落札率
1	ピッツ	研究情報データベース機能更新	3	1	79.15
2	チヨダサイエンス	研究用機器	3	3	82.35
3	チヨダサイエンス	研究用機器	2	1	99.78
4	岩井化学	研究用機器	2	2	99.71
5	チヨダサイエンス	研究用機器	1	2	99.67
6					
7					
8					
9					
10					

B.

	支出先	業務概要	支出額 (百万円)	入札者数	落札率
1	チヨダサイエンス	研究用機器、研究用消耗品	2	随意契約	
2	エキシジェン	研究用機材、機器修理	1	随意契約	
3	ピッツ	研究情報データベース機能構築	0.9	随意契約	
4	日興商会	事務用品	0.5	随意契約	
5	ヤマダ電気	事務用品	0.4	随意契約	
6	薬研社	研究用機材	0.4	随意契約	
7	本道産業	研究用ガス	0.3	随意契約	
8	キーエンス	事務用品	0.3	随意契約	
9	豊島製作所	研究用機器、研究用消耗品	0.3	随意契約	
10	シーケン	報告書印刷	0.2	随意契約	